



ミキサー車は旧知の金子社長の会社から

## 消防署と消防団の連携が大災害から市民を守る

2017年11月5日金沢区幸浦の水再生センターでの、金沢区内すべての消防署と消防団による初の合同消火訓練を、黒川まさる市議が報告します。

昨年末に新潟県の糸魚川市の商店街で強風の中 4万㎡を焼き尽くした大規模火災は記憶に新しいのですが、このような大規模火災は住宅密集地や古い商店街が残る金沢区では他人事ではありません。大規模火災や大震災などの際には消防署の能力だけで災害を食い止めるのは困難な場面も出てきます。そこで頼りになるのは金沢区内に8つの分団を持つ消防団のみなさんや、消火活動に協力して下さる企業が所有する車両や機械などです。

それぞれの分団はいくつかの班に分かれ、多くの消防団員や消防車両・被服・用具といった消防機能を持っています。普段はボランティアベースで受け持ちの地域の中で防災訓練や火災時の消火活動などに従事していますが、このように大掛かりな訓練を行ってみると、連携や指揮命令、効率的な動きなどはいきなり完璧に出来るものではないと痛感します。



本番さながらの大規模な訓練

250人を超える訓練参加者



ミキサー車1台に水2トン

また、今回の訓練では糸魚川の火災で消防用水が消火栓から十分に確保できず、コンクリートミキサー車が水の運搬に活躍したことを踏まえて、近隣の株式会社金子コンクリート様が、自社所有のミキサー車とともに訓練に参加してくださいました。一台のミキサー車で仮設のオレンジ色の水槽に二杯分の水を満たすことができましたが、ピストン輸送で往復し水を供給するには導線の確保も課題だと感じました。



一斉放水時にはきれいな虹が

課題がさまざまに浮かび上がったということは訓練の大きな成果ともいえます。今後これらの課題を解決するとともに、いざ大災害となった際にも慌てずに対応出来るように訓練を重ねておくことが大切です。

## 他人事ではないテロの恐怖

9月末には、金沢消防署と金沢警察署が連携し、爆発物や化学物質によるテロ攻撃を想定した対策訓練が福浦のハイテクセンタービルにて行われました。ラグビーW杯、オリンピックパラリンピック、アフリカ開発会議などを控え、このような訓練も大切です。地域の防災訓練から特殊な対応、大規模災害まであらゆる危機に備えるべきと黒川市議は訴えます。



風船のような防護服が化学剤から身を守る



爆発物は液体窒素の中に入れて処理



# 地域に根差した中小企業が横浜を元気にします!

黒川まさる市議は、秋の横浜市会決算特別委員会において、経済局と建築局に対して一問一答で質疑を行いました。経済局には中小企業に対する支援政策、建築局には人口減少社会における住宅政策を中心に、黒川まさる市議が行った質疑を要約して振り返ります。



Q:横浜市内で本業やその他の活動を通じて地域社会への貢献に取り組む企業を『よこはま型地域貢献企業』として認定する制度が発足して10年になったが、どのような工夫をして認定企業を増やす努力をしてきたのか。

A:認定企業の横浜市ホームページでの紹介、低金利融資、企業間の交流会の実施などで支援してきたが、黒川議員の提案もあり、認定作業の無償化、入札における加点评価などを行った。今年は10年目にあたり傑出した素晴らしい企業への表彰制度に取り組んだ。

Q:表彰制度はマスコミが取り上げるように工夫すべきだ。また、他の局で行っている『よこはまグッドバランス賞』『横浜市健康経営企業認定』『よこはまはぐ』などの事業との連携や、区役所からの地域社会に貢献している地元企業情報の収集や、一人事業主や設立間もない企業の認定などにも取り組んで認定企業を倍増させてほしい。  
A:提案をしっかりと受け止め、さらに認定企業を増やせるようあらゆる努力をしていく。

Q:商店街の空き店舗対策としてのコンサルティング事業は、地域特性を踏まえた商店街全体の意見集約や空き店舗物件所有者への粘り強い交渉など、単なる企業コンサルとは違うきめ細やかな対応をすべきだ。  
A:ひとつひとつの商店街で状況は違うという認識に基づいて、粘り強く話し合いを進め実績を重ねていく。

Q:横浜市はベトナムのダナン市と包括協定を締結しているが、官民連合体として事業実施を目指すごみの分別収集や焼却プラントなどの分野には市内中小企業にもビジネスチャンスがあると思うがどうか。  
A:企業支援財団やJICAとも連携し、モノづくりや調達に融通が利く中小企業にもチャンスを提供していく。



Q:ベンチャー企業やスタートアップ企業の支援は、IT先進国のリトアニアやエストニアのように起業家が集積・交流して互いに成長できるように、起業家の卵たちに小さなオフィスの集合体のような場所を行政が後押しして提供すべきだ。  
A:起業家へのニーズ調査を行った。横浜らしいベンチャー企業集積による成長支援を目指して、AIやIoTなどの成長分野を伸ばしていく。

## 元気な若い世代とともに 新しい横浜・金沢を創ってまいります

10月14日、産業振興センターではPIAフェスタとともに『あおぞらファクトリー』が開催されました。金沢工業団地のモノづくり企業のみなさんが、自社の製品の工程にひと工夫して子供たちが楽しめるワークショップを学生たちと展開していました。仕掛け人の本多竜太さんは、黒川市議の横浜JC時代の後輩です。若い世代が新しい発想で活躍しています。



11月6日、開港記念会館に於いて『横浜型地域貢献企業認定制度10周年記念』企業交流会が開催され、黒川議員は制度がスタートした当時の横浜JC理事長・横浜スタンダード協議会理事長として、一緒に議論を重ねて制度を作った当時の常任理事の大川哲郎さん、元横浜市経済局の吉田正博さんとともにパネルトークを行いました。

# 人口減少社会に向けて行政・政治が出来ること

## 金沢区将来人口推計



Q:人口減少が進む金沢区では緑豊かに区画整理された住宅街の過疎化が進んでいる。横浜市民の6割が暮らす市内各地の郊外部の住宅再生に取り組みなければ、老々介護、独居老人、空き家と進んでいくと思うが、横浜市はどう対応するのか。

A:地域によって温度差はあるが黒川市議の指摘は行政も感じている。地域に入って、実情を把握した上で適切な対応をしていきたい。

Q:東急電鉄、相鉄ホールディングス、UR都市機構などと郊外住宅地の課題解決に取り組む『持続可能な住宅地モデルプロジェクト』は、どのように展開し、成果を上げているのか。

A:様々な世代の人たちが大きな区画の中で一緒に住み、交流が出来るよう、住宅街の中に子育て関連・高齢者関連の施設や商業施設を集積させて、多様な世代が地域内で助け合って暮らせるようなまちづくりを進めている。駅の近くで展開しており、入居者には好評である。

Q:このモデルプロジェクトは建てたら終わりではなく、持続可能な街として若い世代が呼び込め、多様な世代が住み続けられる街になるには関係者が一緒に街づくりを考える主体を組織するべきだ。

A:都心の駅周辺などで展開しているエリアマネジメン

トの発想を応用し、鉄道会社やデベロッパーと地域住民や民間施設が一体となった地域運営の組織づくりを進めていく。

Q:このような取り組みを全市的に展開すべきだと思うが横浜市の考え方はどうか。

A:ぜひ現在のモデルを成功させて京急沿線や並木地区も含め、全市的に展開していきたい。



Q:金沢シーサイドタウンでは、臨海部の工業団地との職住近接支援、シーサイドラインの学生定期の割引、商業施設での若者向けテナントや保育園の入居、大学や企業やURとの協働など関係事業者の様々な取り組みによって若い世代の回帰や雇用創出に挑戦している。多様な主体の連携による団地再生に総合的に取り組むべきだ。

A:市内各地の団地の再生にはその視点は重要だと考える。地域の特性に応じた総合的な対応で郊外部を再生していく。

Q:大規模な国有地や、休眠工場、企業の社宅団地跡地などの大規模な土地利用転換にあたっては、デベロッパー任せにせず、公共機能や福祉機能、商業施設や医療施設など適切な機能を行政主導で計画的に政策誘導し、このような機能を付加した場合には容積率を優遇するなど、行政がこれまで以上に踏み込んだ対応にスピード感をもって取り組むべきだ。

A:環境設計制度や、都市再開発法、特区制度など様々な制度を活用して、行政が関与してより良いまちづくりにつながるよう積極的に取り組んでいく。



Q:新市庁舎建設にあたっては、単なる行政施設ではなく、横浜の新しいシンボルとして市民や市外からの観光客が、横浜のことを知ってもらえる工夫や、イベントなどに活用できる造作、気軽に見学できる導線などに全市的に取り組んで欲しい。

A:建築局だけでなく、文化観光局、市民局、国際局、経済局などからも意見を吸い上げ、様々なニーズに対応できるフレキシブルな内装を検討していく。





19年ぶりの日本シリーズ、ぜひ来年も

# ラグビーワールドカップや 東京オリンピック・パラリンピック 横浜DeNAベイスターズ、マリノス 横浜FC、ビーコルセアースなど 横浜のスポーツを盛り上げます！

## 金沢区でもみんなで 盛り上がりたい！

クライマックスシリーズの劇的な勝利の直後、地元の仲間たちから金沢区もスポーツを盛り上げようという意見が出て、黒川市議は翌朝視察先の沖縄から金沢区役所に電話をします。

「八景島の水族館のチケット売り場の横の映像装置で福岡での日本シリーズを放映してみんなで盛り上がりよう！多勢で一緒に応援できるし、飲食店やシーサイドラインの収入も増える、横浜市内各地での盛り上がりがマスコミの話題にもなるし、花火も上がるかも。金沢区民にとっても観光振興にも良いことづくめでしょ。」すると早速金沢区役所と八景島で検討が始まりました。

続いて市民局のスポーツ振興部に電話をしてベイスターズ球団と相談です。「日本シリーズの放映権は日本プロ野球機構が持っているが、営利目的でなければ申請を出せば認められると思う。八景島から連絡

が来れば動きます。」

ところが、残念ながら映像装置のテレビ電波を映す機能が故障中と判明し、荷台に巨大映像装置があるトラックのレンタルなども検討してもらいましたが、間に合わないとのことと断念となってしまいました。

来年もベイスターズに頑張ってもらい、野球以外でも次のチャンスがあれば再度挑戦しようという関係者と話しました。

## 日本の常識は 世界の非常識？

11月4日は日産スタジアムでラグビーの日本代表対オーストラリア代表の試合がありました。結果は敗戦でしたが、「W杯の優勝候補から3トライを挙げたのは観ていて興奮した」とは黒川市議の感想です。

この試合の盛り上げに黒川市議の友人がフェイスパインのブースを新横浜の駅前広場で行うことになりました。ところが直前になって港北区の保健センターから『顔にペイントをするのは美容業法に抵触



するので中止にせよ』との連絡が入ります。サッカーやラグビー、音楽イベントや区民祭りでもフェイスペイントは大人気です。突然の中止勧告には驚きましたが、顔にはシールなら許可、首からは絵の具の使用が可能という判断で開催することが出来ました。しかし美容業法では屋外での美容業の提供は禁止されているので実質的には不可能となってしまいます。「世界中のイベントで行われているフェイスペイントが日本だけは出来ないのでは世界の笑いものです。スポーツのビッグゲームは観客を楽しませ、市民の一体感を高める最高のイベントです。これからは規制とも戦い、様々なアイデアを実現させます。」と、黒川市議は熱く語ってくれました。

市民に開かれた、わかりやすい政治を目指す、黒川まさる横浜市議員に対する期待、要望、激励、メッセージなどをお寄せください。

.....  
.....  
.....

お名前・ご連絡先

返信FAX 045-786-4310 または masaru-k.net@hb.tp1.jp  
ご意見をいただいた方にはお返事をさせていただきます。  
(住所・メールアドレス・FAX番号何でも結構です。)